

増え続けるCO₂排出量に対し、 いよいよ削減目標を設定

二酸化炭素 (CO₂) 排出量

1990年からほぼ倍増

京都大学のCO₂排出量は、2006年度の段階で、1990年比およそ90%も増加しており、京都市でも第五位の排出事業者となっています。

増加の背景には、施設の増床・整備やグレードアップが進んだことや、大学院重点化により学生数が増加したことが上げられます。

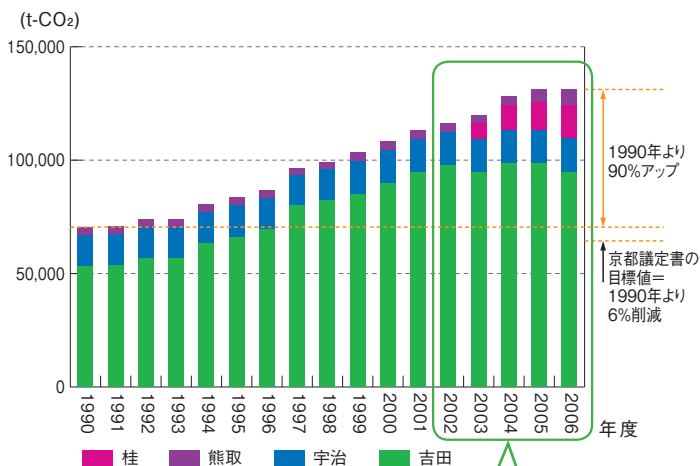
1人あたり排出量は約4,200kg

=家庭生活での1人あたり平均排出量の3倍以上

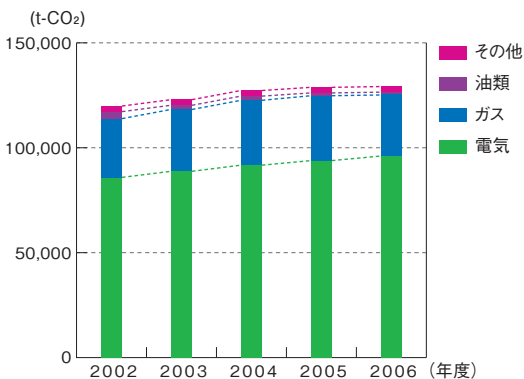
2006年度、京都大学では、年間約14万トンのCO₂を排出しました。排出総量は増加傾向にあります。単位面積当たり排出量は減少傾向にありますが、一人あたり排出量は引き続き増加しています。

構成員一人当たり排出量は約4,200kgとなり、家庭生活における一人あたり平均排出量1,300kgの約3倍に相当します。

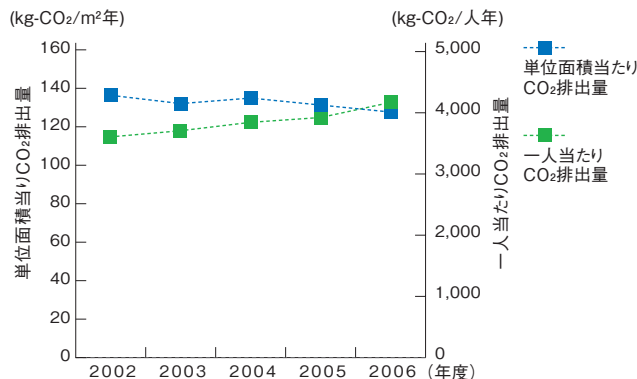
4団地におけるエネルギー消費によるCO₂排出量



二酸化炭素排出量(総量)



二酸化炭素排出量原単位(単位面積当たり、一人当たり)



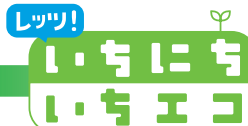
（京都大学は、単位面積あたりCO₂排出量を毎年**2%**削減することを目指します。）

■費用効果
全学で年間約5000万円の節減が見込めます。

その方法は……

- 1 施設改善などのハード的な対応により毎年1%削減
- 2 構成員の省エネ活動などのソフト的な対応により毎年1%削減

構成員の皆さんの協力が必要です



(中央を開いてください)

■日本の温室効果ガス排出状況

2005年の段階で日本の温室効果ガス排出量は1990年比7.8%増となっており、2012年までの京都議定書第一約束期間における目標(1990年比6%減)達成は容易ではない状況となっています。なかでもオフィスや学校、病院など「業務その他部門」は1990年比44.6%増と非常に高い伸びを示しており、今後厳しい対応を迫られることが予想されます。

詳しいデータや計画は、詳細版へ
<http://www.kyoto-u.ac.jp/kankyo/report07.html>